

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> ：一般国道10号 <small>ふるこう</small> 古国府拡幅	<b>事業区分</b> ：一般国道	<b>事業主体</b> ：国土交通省 九州地方整備局				
<b>起終点</b> ：起点：大分県大分市顕徳町三丁目 終点：大分県大分市元町	<b>延長</b> ：0.6km					
<b>事業概要</b> ：国道10号古国府拡幅は、「JR日豊本線等大分駅付近連続立体交差事業」と併せて国道10号の拡幅を行い、顕徳町三丁目交差点付近の交通混雑の緩和、沿道環境の改善、交通安全の向上等を図る延長0.6kmの事業である。						
<b>H10年度事業化</b> ：S47年度都市計画決定		<b>H11年度用地着手</b>				
<b>H15年度工事着手</b>						
<b>全体事業費</b> ：約97億円		<b>事業進捗率</b> ：88%				
<b>計画交通量</b> ：36,500～36,600台/日		<b>供用済延長</b> ：- km				
<b>費用対効果分析結果</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> <b>B / C</b>  <small>(事業全体)</small>            1.5  <small>(残事業)</small>            17.1         </td> <td style="text-align: center;"> <b>総費用</b>：<small>(残事業)/(事業全体)</small>            10/112億円            (事業費：8.1/110億円)            (維持管理費：2.0/2.0億円)         </td> <td style="text-align: center;"> <b>総便益</b>：<small>(残事業)/(事業全体)</small>            173/173億円            (走行時間短縮便益：156/156億円)            (走行経費減少便益：12/12億円)            (交通事故減少便益：5.4/5.4億円)         </td> <td style="text-align: center;"> <b>基準年</b>：            平成22年         </td> </tr> </table>	<b>B / C</b> <small>(事業全体)</small> 1.5 <small>(残事業)</small> 17.1	<b>総費用</b> ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 10/112億円 (事業費：8.1/110億円) (維持管理費：2.0/2.0億円)	<b>総便益</b> ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 173/173億円 (走行時間短縮便益：156/156億円) (走行経費減少便益：12/12億円) (交通事故減少便益：5.4/5.4億円)	<b>基準年</b> ： 平成22年	
<b>B / C</b> <small>(事業全体)</small> 1.5 <small>(残事業)</small> 17.1	<b>総費用</b> ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 10/112億円 (事業費：8.1/110億円) (維持管理費：2.0/2.0億円)	<b>総便益</b> ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 173/173億円 (走行時間短縮便益：156/156億円) (走行経費減少便益：12/12億円) (交通事故減少便益：5.4/5.4億円)	<b>基準年</b> ： 平成22年			
<b>感度分析の結果</b> ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C= 17.6 (交通量 +10%) B/C= 16.6 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C= 15.9 (事業費 +10%) B/C= 18.6 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C= 16.8 (事業期間+20%) B/C= 17.1 (事業期間-20%)						
<b>事業の効果等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通混雑の緩和</li> <li>・拡幅による容量拡大に伴う渋滞の緩和</li> <li>・国道10号の損失時間の削減（現況1.6万人時間/年 将来0.0万人時間/年）</li> <li>・混雑度の低下（現況2.12 将来0.76）</li> <li>・事業区間における旅行速度の向上（18.8km/h 34.5km/h）</li> <li>・所要時間の信頼性の向上による便益【約6億円】</li> <li>・大道陸橋撤去時の一時的な4車線供用（暫定）に伴う交通混雑の緩和</li> <li>・大道陸橋撤去から仮踏切設置期間（8ヶ月間）の便益【約4億円】</li> <li>沿道環境の改善</li> <li>・平面化、中央帯・自歩道整備による沿線地域の騒音レベルの低減（昼間：現況71dB 将来68dB、夜間：現況66dB 将来63dB）</li> <li>交通安全の向上</li> <li>・死傷事故率の低下（現況125.1件/億台和 将来78.0件/億台和）</li> <li>・供用区間（国道10号）の交通事故件数の削減（現況7.3件/年 将来6.2件/年）</li> <li>・自転車歩行者道の設置による歩きやすさと自転車走行性の向上</li> <li>都市開発の支援</li> <li>・歴史公園（計画中）への利便性確保により新たな観光拠点形成を支援</li> </ul> <p>は供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）</p>						
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ：大分市長をはじめとする市議会、各経済団体等で構成される大分駅高架・駅周辺総合整備促進協議会（会長：大分市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成21年10月）						
<b>県知事の意見</b> ：（事業継続という対応方針（原案）に対し）異存はありません。						
<b>事業評価監視委員会の意見</b> ：審議の結果、事業継続。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

事業区間を含む大分市元町の交通量は、依然、2車線の交通容量を大きく超過する高い混雑状況で推移して状況である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約88%であり、そのうち用地進捗率は約99%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

・新技術・新工法の積極的活用等により、着実なコスト縮減を図る

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。